

令和5年度 第1回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日 時 令和5年7月5日（水） 午前10時00分から11時45分
場 所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 学校経営評議会委員の自己紹介
- 4 会長・副会長の選任
- 5 令和5年度 学校経営方針の説明
- 6 閉会

○経営企画室長

まだ1～2分ございますが、皆さんおそろいなので、これから始めさせていただきたいと思います。

本日は、御多用のところ、御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、このたびは、新たに学校経営評議会の委員御就任に御承諾いただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、本来ならお一人お一人に委嘱状を交付させていただくべきところでございますが、時間の制約もございますので、お手元への委嘱状の配付をもちまして委嘱状交付に代えさせていただきます。委員の皆様、2年間よろしくお願いいたします。

それと、千代田区では毎年度のことですが、区政に関わりの深い団体や関係者の方々を掲載した、公共関係等団体名簿というものを作成しております。この中で学校経営評議会も各委員の皆様のお名前のみを掲載させていただいておりますので、御了承のほど、よろしくお願いいたしますと思います。個人の住所や電話番号等は記載せずに、学校の住所と電話番号になっておりますので、お名前のみを記載させていただきます。

それでは、これから学校経営評議会を開会いたしますが、今年度の任期が始まり初めてなので、会長及び副会長が選任されておられません。選任されるまでの間、引き続き私のほうで議事を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日、2名の委員から欠席の御連絡をいただいておりますので、今日の出席は6名になります。

それでは、新たな構成となり、また、今年度初めての学校経営評議会となりますので、委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思っております。お手元に評議会委員の名簿がございますが、この名簿順に自己紹介をお願いしたいと思っております。自己紹介の後に、会長、副会長の選任がございますので、本評議会の経験年数とかもそのときに紹介していただければありがたいと思います。

それでは、一人ずつ自己紹介をお願いいたします。

(自己紹介省略)

○経営企画室長 どうも皆さん、ありがとうございました。

次に、本評議会を運営するに当たり、会長、副会長を選任する必要があります。会長、副会長の選任につきましては、お手元にも配っております九段中等教育学校の学校経営評議会設置要綱第5条第1項の規定により、委員の皆様の互選により定めることになっております。

それで、各委員の方々から発議あるいは推薦等がございましたら、まずそこを確認して、いない場合は投票というような形にさせていただきたいと思います。

まず、推薦とかそういう方がいらっしゃいましたら手を挙げていただいて、その推薦された方について皆様からの決を取るとことにさせていただきます。

○委員 伝統的に菊友会の会長が至大荘等様々な行事に組織上、立場上、深く関わっていらっしゃいますので、この評議会の会長としてやはり必要不可欠であるというので、これからは恐らく至大荘の運営が大変いろいろ懸案とかがおありになるかと思いますので、原田委員がよろしいかと私は思います。

○経営企画室長 今、池本委員から原田委員を会長にという推薦がございましたけれども、原田会長でよろしい方は、委員の方、挙手をお願いしますでしょうか。

(全員より挙手あり)

○経営企画室長 それでは、全員ということで、申し訳ございませんが、原田委員につきましては会長をお願いしたいと思います。

次に、副会長ですが、副会長についてはどなたかいらっしゃいますでしょうか。もしいなければ、投票という形で。原田新会長。

○会長 ただいま、過分なお言葉をいただいて会長にというお話がありましたが、いけません私もまだ2期目でございますので、ベテランで当初からこの学校経営評議会から歴史も御存じであり、また、副会長を長く務めていらっしゃってました池本さんをお願いをしたらいかがかなと思いますし、私自身も池本さんをお願いしたいなと思っておりますので、池本さんを御推薦させていただきたいと思います。

○経営企画室長 今、原田新会長から池本委員を副会長にという御提案がございました。各委員の皆様、その内容でよろしいでしょうか。申し訳ございませんが、挙手をお願いします。

(全員より挙手あり)

○経営企画室長 全員です。

それでは、ただいま会長、副会長に選任されましたお二人に就任の御挨拶を頂戴したいと思います。

まず、会長より就任の御挨拶をお願いいたします。

○会長 皆さんの御支持をいただきまして、これから会長ということで務めさせていただきます。

きます。

コロナパンデミックの中からまだはっきりと抜け切っていない世の中で、非常に混沌とした中で学校経営がされていかざるを得ないのだろうと思います。一部でもまだリスクが残っている中で、私どもがどれだけ将来に向かって貴重な意見を先生方に提供できるかというのがこれからの役割かなと思っています。教育委員会の皆さんとともに、主役は生徒でありますので、生徒がいかに楽しく充実した学校生活を送れるかということを含めて、微力ながら会の運営に当たらせていただきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○経営企画室長 ありがとうございます。

続きまして、副会長より就任の御挨拶をお願いいたします。

○副会長 本当に私のような者でよろしければ、微力ながら一生懸命やらせていただきます。

一言だけ申し上げますと、私のゼミの生徒で九段中等の卒業生がおりまして、教職課程を取っておりまして、社会の先生になりたいということで、どうしてやりたいのだとゼミに入る面接のときに聞きましたところ、大好きな九段の先生になりたいということを言いまして、ゼミの生徒になってもらいました。

だから、この学校がとてもいいのだなとそのときに感じましたので、微力ながらお役に立てればなと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○経営企画室長 ありがとうございます。

会長、副会長、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、ここからは会長に今後の議事進行をお願いしたいと思いますので、会長席のほうをお願いいたします。

また、副会長につきましても、副会長席への移動をお願いいたします。

○会長 座ったままで議事進行させていただきますが、よろしくお願いいたします。

委員の皆様、これより議事を進行させていただくということになります。

はじめに、九段中等教育学校を代表いたしまして、校長先生から御挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○校長 おはようございます。

本日は、御多用のところ、評議会に御参加いただきましてありがとうございます。

また、会長、そして副会長には、今後、会の運営ということでよろしくお願いいたします。

九段中等ですけれども、実は来年度で100周年を迎えます。市立一中から数えてということになります。令和8年度には中等教育学校になってから20周年ということになりますので、併せて100周年、20周年ということで創立の記念式典を行うというような伝統ある学校ということで、その中でも、伝統を守りつつも、新しい教育へも進んでいくことが生徒のためになるということで、学校の経営に邁進しているところであります。

この後、学校経営方針ですとか、また、今の取組についてお話をさせていただく中で、御意見をいただきながら、よりよい学校経営に努めてまいりたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

次に、本来なら教育委員会事務局を代表いたしまして、大森教育担当部長から御挨拶をいただくというところでございますが、出席できませんでした。皆様にはくれぐれもよろしくというお話がありましたが、それでは、次第に従って議事を進行させていただきたいと思います。

本会議は原則として公開となります。したがって、傍聴希望があれば許可し、議事録は発信者匿名の上、その要旨を学校のホームページに掲載いたしますので、あらかじめ御了承をお願いしたいと思います。

なお、発言につきましては、挙手の後、私が指名してから発言されるようお願いいたします。

それでは、配付資料の確認について事務局からお願いいたします。

○経営企画室長 それでは、皆様のお手元にあります資料についての確認をさせていただきます。

まず次第がございまして、その後に学校経営評議会の設置要綱、評議委員の名簿、次に資料3からになります、学校経営方針、ランドデザイン、そして、資料5から各分掌の経営方針があります。これがずっとございまして、各分掌、そして、各学年ごとの経営方針が1年から6年まである。その後に、また、追加になった、資料6といたしまして九段中等教育学校の入学者決定要件に関する検討結果報告書というものと、資料7でございまして、新たな最先端教育プログラム開発検討委員会設置要綱ということで、今年度、新たな委員会を立ち上げましたので、その関連資料が7、8、9とございます。

過不足等ございましたら、こちらのほうにございますので、言っていただければと思います。

皆さん、よろしいでしょうか。

○会長 それでは、学校経営方針の説明に入っていただきますので、御説明をお願いしたいと思います。

○校長 それでは、学校経営方針について、資料3となります。

昨年度、私が着任してから、学校経営方針は基本的に何ページにもわたって言葉が書いてあるだけというものが多いのですけれども、一表にまとめさせていただいたということになります。

特に赤く印刷されているところは今年度新たに加わったというところで見いただければと思います。昨年度は「千代田から世界へ」というようなことだったのですが、「考動するKUDAN」ということで今年度進めております。

未来貢献については、私が赴任してから、特に未来志向を持って責任ある行動を取って

ほしいということで、未来貢献ということを昨年度から付け加えさせていただいております。

特に今年度、理数教育をより一層強く押し出している。これは、スーパーサイエンスハイスクールの人を目指して新たな委員会も立ち上げておりますけれども、これについてはまた後ほど説明をさせていただきますが、そのような動きの中で新たにグラデュエーション・ポリシーとして加えさせていただいております。

特に学習指導のところにも掲げさせていただいておりますけれども、新たな最先端のプログラムを今開発していくということ、それから、スーパースマート構想ですね。ICT、いろいろ今、ChatGPTですかね。生成AIといったことも話題になっております。今朝のニュースで東京都教育委員会の動きについて話があったり、あるいは文部科学省から通知が出ておりますので、そういった動きがありますけれども、基本的には禁止したところで使っているものを正直見分けるというのは困難であると思います。私のほうで教員に伝えたのは、使用を認めた上で、どこをどう引用しているのかということをしつかりと明記させる。それが一番いいのではないかと。要するに、昔で言えば図鑑をそのまま写して、あるいは読書感想文は後書きのところを写していくみたいな、今までもそういうのはあった。それは、活用するならするで、それをどういうふうに分けて使ったのか、あるいはChatGPTを使ったら、こういうふうな結果が出た。それが本当なのを探っていくということが大事なのだらうということがあります。今後、いろいろと教育委員会等の動きも出てくると思いますけれども、それに応じてということよりは、現場としては先んじていろいろ手を打っていかざるを得ない部分かなと思っております。こういった先を見通した教育を展開していくということが大事かなと思います。

それから、いじめについてということで、今年、いじめ防止研修ということで、日本における第一人者である日本女子大学の坂田先生、中央研修で全国から集まる校長先生たちに講義をするようなですけれども、委員をお願いしたいと言ったら、野村さんの言うことにならしようがないなということで来てくれることになりましたけれども、坂田先生に入らせていただいて講義をしていただく。

いじめ防止の基本というのは、かなり学校の責任というのは重くなっています。坂田先生はいろいろ判例等にも精通しておりまして、どうしていかなければならないかということで、既に一度学校に来ていただいて、足りない部分については御指導いただいておりますので、それに併せて学校もいろいろ改定しているというところになります。

本人がいじめとは気づいていないのだけれども、いろいろなところでいじめに発展していくような人間関係というのがありますので、そういったものをしっかりと教員も把握しながら見ていくということが大事かなと思います。

また、先ほどスーパースマート構想と言いましたけれども、ICTがどんどん発達していくにつれて生徒たちもどんどん変わっていきますので、我々が把握し切れない部分をどういうふうにかにキャッチしていくかということも大事かなと思いますけれども、そうい

ったことでいじめをゼロにしていくということで目指していきたいと思います。

それから、理数オリンピックやディベート大会と書いてありますが、特にスーパーサイエンスハイスクールということになれば、理数系に特化した生徒、とんがった生徒を育成していく必要がある。そういったときに、オリンピック関係ですね。物理オリンピックとか科学オリンピック、いろいろありますが、そういうところを目指しながら、科学の祭典というのが東京であるのですけれども、今年度もそれにエントリーしながら進めていくというようなことを行っております。

それから、5月8日以降、コロナ禍が2類から5類ということで、学校の教育活動もかなり制限が取れてきました。いろいろな学校行事でも、何をするにしても4年ぶりとかそういったことで、前はどのようなことをしていたのかというのがなかなか引き継いでいくことが難しいということで、生徒たちもそうなのですけれども、そういった中で過去のをひもときながらと同時に、コロナ禍で新たないろいろなものが行われてきました。そのよさを生かしながらということで進めていっておるところでありますけれども、そういった中で、例えば学校説明会が今まで行われていなかったり、やってもオンラインだったのですけれども、それを対面で行っていくですとか、そういった新たな取組ということで、学校説明会5回と書いてありますが、非常に多くの小学生の皆さんから行きたいということで、今、いろいろと申し込みもあるところであります。

このように、10月1日から都立の中高一貫校10校と千代田区立九段の11校で小学校を対象にした合同説明会というのが初めて行われます。今までは都立の合同説明会というのがありまして、そこに1ブースもらっていたのですけれども、多くが中学生対象だと思うのですが、なかなかブースに来ないというようなことがあったのですけれども、今年度は中高一貫校という小学生だけを対象にした合同説明会が行われますので、そちらに多くの方がいらっしゃるのかなと想定しております。

学校経営の一番大きなところで、先ほどお話をさせていただきました最先端教育プログラムの委員会、これは後ほど説明をさせていただきますけれども、日本というか世界で活躍されている第一人者の方を、一学校になかなか委員として来られない方、来ていただけないような方を招いて行っております。千代田区教育委員会の方々にもバックアップしていただいて行っております。このプログラム開発で来年度以降、また新たな九段ということで進めてまいりたいと思っております。

それから、区立小学校への訪問事業1回以上と書いてあるのですが、昨年度は実はキャリア教育の一環として上級学校はどういうものかということで、区立小学校8校あるうちの、1校だけなかなか行けなかったのですけれども、7校に行って、小学校5、6年生を対象に、また、保護者の方も来ていただいて構いませんよということで、私のほうで授業を行っている。九段の理解もそこで進めたというようなところであります。

学校経営方針に基づき、今年度も進んでいるというところであります。

私からは以上になります。

○会長 ありがとうございました。

積極的な方針ということで、令和５年度学校経営方針を校長から御説明いただきましたが、皆さん、委員の中で、ただいまの御説明の中で何か御質問あるいは御意見等はありませんでしょうか。

ございますでしょうか。

よろしければ、次に進みたいと思います。項番５「その他」ですが、ほかに何かありませんでしょうか。

○経営企画室長 会長、実はグランドデザインとか各分掌ごとの教育方針も全部４に入っておりますので、申し訳ありません順番に資料の説明とさせていただきたいと思います。

○校長 グランドデザイン、これは資料４になりますけれども、これにつきましては昨年度同様進めていく。赤文字で若干グラデュエーション・ポリシー等付け加えているところはありますけれども、昨年度に引き続きということで大きく変わっているところはございません。

では、それぞれの分掌の方針については副校長のほうから説明させていただきます。

○会長 ありがとうございます。

○副校長 では、よろしいでしょうか。

私は、今の校長の学校経営方針を受けて、各分掌、学年でどのように動いているか、簡潔に説明いたします。

担当しております部署が、まず資料の３ページにございます知の創造部から御説明します。

この分掌は昨年度まで教務部という名称でしたが、今年度、分掌の名称を校長の学校経営方針の教育目標に即した名称に変更しておりますので、知の創造部という名称変更になりました。昨年度まで教務部と言っていたものです。

では、その中から主なものを御説明いたしますが、２番目の重点課題にありますとおり、まず授業を学力伸長の第一の場と捉えて、生徒と教員が協働して質の高い授業を創造する。これは経営方針の中のスクールポリシーにもありますとおり、また、今の校長の説明にもありましたとおり、確かな学力の向上と理数教育、グローバルリーダーの教育ですとか探究学習の充実といったところを受けてのこの知の創造部の経営方針となっております。

やはり学力伸長はまずは授業からということで、３番の（１）の①にありますとおり、双方向的な対話による学び、生徒が主体的に思考する授業、思考を表現する授業、他者の考えに触れ、相互に深い学びへと発展する授業といったものを展開するということです。これは現行の学習指導要領でも評価の観点等で重要視されているところであります。思考力、判断力、表現力といったところは、伸ばしていく一つのポイントとなっているところです。これは知識、技能というポイント、それと学びへ向かう姿勢といったところと併せての育成の視点ではありますが、まずは授業からという意味で言いますと、一方的な教え込みの授業ではなく双方向性のあるもの、これは生徒対生徒、あるいは生徒対教員、いず

れも含みますが、そういったところから一人一人が主体的に動けるようにといった授業の構成をしているところです。

また、そういうふうになるために、3の(3)の①にありますとおり、教科会及び教科主任会を月1回程度実施して、教科として組織的な対応力を高める。学校全体が教科同士で連携を図りつつも、各教科の中でそういった授業が構成できるように研鑽を図っているところです。定期的に教科内で研修会を行っている。そういった教科もあるぐらいで、かなり活発に行っているところもあります。

(4)にありますとおり、校内での研修会及び外部の研修の情報提供等を行い、授業力の向上を推進する。校内的な研修は、教科内での自主的な研修会もそうですし、知の創造部が主催する例えば外部有識者を招いての研修会なども年に数回計画があります。また、外部の研修という意味で言いますと、例えば都の教職員研修センターの様々な研修を案内し、また、それらに先生方が積極的に参加したりしておりますし、他校の授業も紹介しております。例えば小中高校、他校で様々な授業研究の場がありますが、それらを紹介して、また、先生方も積極的に参加してくれているところです。あと、公的なもの以外にも、例えば予備校が主催する授業力向上の研修、こういったものも積極的に参加するようにこちらから案内をしているところです。

続きまして、資料の4ページ、5ページにまたがります、豊かな心育成部の経営方針に関しての御説明をします。

この分掌も昨年度と名称が変更になっております。昨年度までは生活指導部と呼んでいたものを、学校経営方針の教育目標の「豊かな心」、この名称を入れたものとなっております。生活指導といいますと、一方的に教員から生徒に対して何かを指導するというようなイメージが伴ってしまいますが、内発的な生徒たちの豊かな心を育成するというような名称の変更によって、生徒たちの中にもそういった意識を根づかせたいといったところがあります。

では、2番目の項目にあります重点課題から御説明しますが、(1)にありますとおり、リーダー性の育成、(2)にある自主・自律の精神を養う。こういった自らが動ける、これは生徒の自立を促す九段自立プランにも通じるところであります。そのために、3番の(1)にありますとおり、様々な機会を捉えて生徒の自主的運営がなされる場面を積極的に設けております。実際に生徒自治会ですとか、あるいは各行事の実行委員会等、本当に生徒たちは活発に動いてくれておりますし、そのコアとなる、主に後期課程の生徒なのですけれども、中心のメンバーたちは本当に様々考えてくれて提案をしたりしているところです。

あとは、2番の重点課題の(3)不安のない学校生活の実現、(4)の学習活動と両立できる部活動の環境整備、こういったところもこの豊かな心育成部が取り組んでおります。

不安のない学校生活の実現に関しましては、いろいろな形で生徒たちの状況の観察をすることで生徒情報の共有をする場を設けております。3の(3)にありますとおり、日常

の生徒の観察や生徒との触れ合いに重きを置きというところで、そのために拡大豊かな心育成部会、これは各学年の担当者が出そろい、また、外部からもスクールソーシャルワーカーの方ですとかそういった方々を情報共有の場にお招きして、様々な生徒の情報をその場で共有しているところでもあります。そういった形で情報共有をしながら、不安のない学校生活の実現を図っているところでもあります。

それでは、続きまして、学年の御説明に行きます。私は前期課程を担当しております。

1 学年をまず説明します。資料は 8 ページです。

やはり学校生活に生徒たちが主体的に取り組むということで、1 学年は今年 20 回生という節目の生徒たちになりますが、2 番目の学年目標にありますとおり、課題意識を持って授業を受け、相互に切磋琢磨できる授業環境をつくる。つまり、お互いがお互いを高め合うというような意識で、一つの九段中等という仲間意識をまず 1 年生の段階で根づかせるというような取組を学年のほうで設けているところです。

また、自分自身を律するというところは、(2)の②にありますとおり、手帳を活用して予定や時間を管理できる力をつけさせるというところから、少しずつ自分自身を管理して自らを律する、自律するといったところにつなげる指導をしているところでもあります。

続きまして、2 学年です。10 ページを御覧ください。

2 学年は、1 年間を本校で過ごし、ある程度の 1 年間の流れというものをつかんだ学年であります。前期課程のちょうど半ばということになりますが、基本方針の(1)にありますとおり、豊かな人間性を育み、社会の一員として貢献できる資質を養わせる。下に後輩ができた。そういう学年ですから、これからはもっと上のほうを見据え、社会の一員として貢献できる資質を養わせるということで、目標にもそういった視点で様々な取り組んでいるところではありますが、その中から 2 番の(3)進路指導のところを拾い上げますが、職場体験を通して勤労に対する意識を持たせ、具体的な将来の展望を抱けるよう方向づける。この後 3 年、4 年、5 年、6 年と進んでいくわけですが、先々を見据えるための基礎をまず知るところで職場体験を行っております。実は本日と明日、2 日間にまたがってまさにこの職場体験を実施しているところでもあります。

また、3 番の(1)にありますとおり、ここでもやはり 1 年生から引き続きまして手帳によって時間の管理、日々の振り返り等として様々な形で自学自習等の意識づけを図っているところです。

また、その下の(4)キャリア教育というところにありますとおり、先々を見据えるという意味では、様々な行事を通じて、また、授業を通じて、日本社会や国際社会に目を向け、視野を広げる、考えを深めるというような段階に進めるための行事や授業の充実を図っていくところです。

続きまして、3 学年です。11 ページの資料を御覧ください。

前期課程最終学年ということになりますので、基本方針にありますとおり、力強く後輩を引っ張れるような 18 回生に育てるところを方針としております。

また、2の（1）にありますとおり、学習面では前期課程の学習を完成させる。その横に基礎学力養成とありますが、正しくは基礎学力養成期というのは本校では1、2学年に位置づけておりまして、3学年、4学年は充実期に当たります。ここであえて基礎学力養成と書いてありますのは、3学年に上がったということで、1、2学年で完成させているべきところは漏れないように、もしそういったことがあれば必ずこの1年間をかけてフォローしていくといったところの目標とさせていただいております。

そのための具体的方策としましては、3の（1）にありますとおり、英、数、国を中心としました朝学習、朝読書、そして、放課後スタディ、これらを行うことで今の目標を達成していこうというところであります。

また、③にありますとおり、英語劇やオーストラリア海外研修旅行などがこの学年では行われます。いずれも国際理解といったところの観点の学習活動であります。特にオーストラリア海外研修につきましては、コロナ禍におきまして上の学年が数年にまたがりまして実施できませんでした。今年度は久しぶりの開催ができるということで、まさにこの夏休み明けに向けて準備を進めているところであります。

あと、（2）にありますとおり、生活指導に関しましては、こまめに学年集会を開いたり、あるいは担任との面談もこまめに行ったりということで、前期課程から後期課程に進級するに当たっての細かい指導を入れているところであります。

私からは以上です。

○副校長 私からは、資料5の1ページ、未来貢献部から補足説明をさせていただきます。

未来貢献部は、昨年度キャリア教育部という名前でした。

未来貢献部では、1年生から6年生までキャリア教育について計画、実施していきます。第1学年では企業訪問、第2学年では職場体験、第3学年では江戸っ子塾、それから、前期課程、後期課程それぞれキャリア講演会を実施しております。

また、進路サポートについては、卒業生からは先輩に聞く会、それから、実習室サポーターを配置して質問等を受け付けたりしております。それから、自習室サポーターが数学とか化学とか講習会を行っております。

それから、学習面ですが、昼の講習会、放課後講習会、夏季、秋季、休業中の特別講座、各教科の教員がそれぞれ担当して行っております。

進路選択では、進路相談、面接指導、小論文指導などを行い、多様化する入試形態等に合わせて教員、生徒、保護者に向けて情報提供等をしております。

続きまして、2ページです。

CNV室です。この部署に関しましては、今年度新たに立ち上げました部署になっております。

CNV室では、社会が直面する課題を解決できる人材を育む新たな最先端教育プログラムを開発しているところです。グローバルリーダー教育、STEAM教育、キャリア教育、教科教育相互効果を高めながら、創造的思考力、課題解決力、人間関係力、キャリアプラ

ソニング能力を伸ばし、プログラムを開発しているところです。また、スーパーサイエンスハイスクールに応募し、指定されることを目指していきたいと思っております。

続きまして、6 ページです。

SMP部です。昨年度は総務部という名称でした。

総務部では、広報活動を充実させ、本校の教育活動への理解を深く深める活動を行っております。

今年度、まず8月20日、夏休み期間中に、小学生の授業体験を行います。国語、社会、数学、理科、英語、これを4回に分けて20名程度ずつ小学生を募集して、授業体験を行っていきます。

それから、本校で行う学校説明会に関しては、7月8日、10月8日、11月11日、3回行っていきます。11月11日に関しては願書配付となっております。

また、外部で行う活動としては、先ほど校長からもありましたが、10月1日、中高一貫校を知る会、中高一貫校が集まりまして、小学生、保護者に向けて説明を行っています。場所は東京都研修センターとなっております。

そのような流れで、広報活動を今年度も充実して行っていければと考えております。

続きまして、各学年の説明に入りたいと思います。私は後期課程について説明をしたいと思います。

12ページになります。第4学年からです。

第4学年は、後期課程生になり、中学課程から高校課程になりますが、その違いについてまず学年で確認をしてスタートしました。授業に関しましても、欠席がその科目の履修に関わるところですとか、あと、生活面でも給食がなくなって弁当になるとか、細かいところを確認しながら後期課程としての学校生活をスタートしました。後期課程の生徒として正しく判断、適切な行動ができるように育成していきたいと思っております。また、基本的な学習習慣も身につけさせ、自分の進路選択についても考えさせていきたいと思えます。

また、第4学年では至大荘行事があります。例年4泊5日で行っていたものなのですが、密を避けるために2期に分けて行います。7月31日から8月2日が至大荘行事Ⅰになります。また、8月3日から8月5日が至大荘行事Ⅱという形で、2回に分けて至大荘行事を行っていきます。

続いて13ページ、第5学年です。

第5学年は、九段校舎から富士見校舎にホームルームクラスを移し、新たな形で学校生活をスタートさせております。

進路に向けた活動も徐々に行っていきます。秋には、6年生になったときの進路選択に合わせて、授業の科目選択について考えていきます。担任と面談を通しながら、将来どんな職業に就くか、大学は何を専門に学習するとか、そういうことも面談で踏まえながら科目の選択を行っていきます。

また、行事では九段祭を行います。九段祭では中心となって活動していきます。それから、シンガポール研修旅行も行います。10月13日から10月17日までという日程で行っていきます。本校で初めての実施となります。生徒が今まで学習した内容を踏まえながら、担当学年でプランを検討して今準備を進めているところです。

14ページです。第6学年です。

第6学年では、最高学年として規範意識を持ち、目標に向かって進む姿を見せることで、下級生の範となるような行動ができるように生徒を育成していきます。

最高学年ということで、5月に行われました体育祭では、1年生から6年生まで青団と赤団に分かれて、久しぶりに開催したわけですが、中心となって体育祭で立派に活躍しておりました。

また、夏休みには担任と面談を行い、自分の進路に関して進路志望を決定していきます。進路を実現するために、担任団と協力して、また、未来貢献部とも協力しながら、卒業まで生徒を育成していきたいと考えております。7月7日には推薦説明会を行います。また、今年度、大学入試共通テストに関しましては1月13日、14日に実施となっております。それに向けて、教員と生徒ともに頑張っていきたいと思っております。

私からは以上です。

○会長 副校長、どうもありがとうございました。

ただいまの御説明の中で御質問あるいは御意見等はございますでしょうか。

どうぞ。

○委員 学校経営方針等について、御説明ありがとうございました。

先日、都内の中高一貫校の保護者会の集まり、イッカンズというのを年2回にやっております。参加してまいりました。他校ではいわゆるPTAという形で副校長先生に副会長という立場で参加していただいているからか、学校からいろいろな要望を保護者会が受けることが多いです。ただ、九段はどういう背景か、口伝でしか伝わっていないので、正しくは分かりませんが、P.A.という形で保護者会組織になっておりますので、もしかしたら学校の先生方が保護者会に遠慮してあまり物を頼まないということがあったりするのかなと思っているのですが、ぜひ遠慮なく、我々、向かうところは生徒たちの教育環境の向上ですので、すばらしい経営方針等を掲げていただいているので、保護者会で何かお役に立てることがあれば我々も尽力いたしますので、遠慮なくお声がけいただければと思っております。

以上です。

○会長 今の御意見に関して、何かございますでしょうか。

○校長 温かいお言葉、ありがとうございます。ぜひ頼っていきたく思いますので、よろしく願います。

あと、補足ですけれども、昨年度まで例えば教務とか生活指導とかキャリア教育部という分掌名だったのですけれども、生徒と話をする中で教育目標を知っているかと言ったら、

知らないのです。というのは、入るときは聞いているのだけれども、入ってから全然知らないということで、分掌の名前を教育目標にちょうど適合したのです。例えば生活指導については豊かな心育成、豊かな心というのは教育目標なのですけれども、豊かな心育成部という形で、教務は知の創造というのが教育目標にありますけれども、知の創造部。それから、キャリア教育については未来貢献部ということで当てて、職員室に入るときに、今までは生活指導の先生はいますかと言っていたのですけれども、豊かな心育成部の先生はいますかと豊かな心育成を声に出すので、すごくすばらしいなと思いながら校長室でいつも聞いているのですけれども、やはり言葉というのが大事なのだと思って、子供たちはそういう意味でも教育目標をしっかりと把握しているなと思っています。

それから、CNVとSMPという3文字がありましたが、今、3文字がはやっている。はやるには英語3文字というのがいいということで、それで、CNVはCreate New Value、新しい価値の創造の略なのですけれども、それをCNVとして新しく立ち上げています。これについては、先ほど申しました新たな教育プログラム開発委員会を担当している分掌です。

それから、SMPというのは総務部だったのですけれども、これをSchool Management Promotion、それを略してSMPということで、ちょっとミーハー的なところもあるのですけれども、九段が発展するようというように、分掌名も切り替えることで、先生たちの意識も変わっていくということで、そのように今年度からやっています。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

先ほどの口に出すということが、声に出して自分たちが言うということのもまた一つ大切なことかなと思いました。

また、勉強不足でCNVとSMPはどんな意味ですかとお聞きしようと思ったら、先生に先に答えていただきました。ありがとうございます。

ほかには皆様のほうから御質問、御意見等がありますでしょうか。

どうぞ。

○副会長 私は大学の現場の教員なのですけれども、うちの大学だけではなくてほかの大学でも非常勤の講師をしており、比較したりいろいろしているのですが、そこで正直なところ、うちの大学だと就職がなかなか厳しいところが、半分ぐらいはいいのですけれども、半分为なかなか悪いということで、結構有名な会社の人事部の人たちと話すことがすごく多いのです。そうすると、必ず最近共通して言われるのが、レジリエンスという言葉が多いのです。レジリエンスを重視している。つまり、諦めない心、すぐやめてしまったり、すぐ放棄してしまったりする学生たちをなるべく減らすことが重要です。企業の人事として育てていくうちにすぐに辞めてしまうのも嫌だということもあるのだと思いますけれども、それがやはり自分のゼミとか、ちょっとこれは駄目だよなというのをうまく言わないと、すぐゼミをやめてしまうのです。これは恐らくリモート教育の中であまり人と接して

いないとか、剣道や柔道ばかりがいいとは言いませんが、ゼミナールなんていうのは道場のように人と人が接していろいろ言ってくなくてはいけないのですけれども、その経験がコロナで減って、やはりなかなか難しいところがあるのです。

そういうことであれば、この豊かな心育成部という生活指導部のことですが、これの中に2行目に諦めない心と出ておりまして、生活指導部だったら「諦めない心」というのがないのには、名称がもうちょっと広義の意味でいろいろ使える名前にされたのかと思いますが、だから、これは実はさらっと書いてありますが、現場にいる人間としては大変大きいのです。ですから、もう少しクローズアップしていただきたいというか強調して、頑張って至大荘で遠泳するのもそうだと思いますけれども、そういう「諦めない心」というのは、恐らく受験とかいろいろな勉強をするのもやはりある程度忍耐力が必要かなと思うのですけれども、生活指導だけでなく全てに通じると思いますので、ですから、それがちりばめられていて、特に4年生の目標のところにもやはり出ておりまして、さらっと出ているのですが、4年生の12ページですが。生活指導の一番下から3行目に「様々な環境を生き抜く人間力を鍛えさせる」というのは、これは本当に大事かなというのを現場にいて非常に強く感じております。

それから、もう一つ、これは本当の感想で、いろいろ最後の後期試験とか内部の試験で論述試験の採点をするときに、国語力というか文章力がかなり低下していると、この2年間ぐらい感じております。やはりコロナの影響かと思いますが、ですから、要約する力とかがほとんどない子供と、本をたくさん読んでいてすごくできる子と、全くできない。恐らく○×や記号などそういう選択肢ではなくて、やはりちゃんと物を読んでいくという機会が恐らく数年間減っているのかなと思いますので、ぜひ国語など科目に限定しないで、読む力とか考える力を、恐らくいい大学にたくさん合格できると思うのです。我々のようなところは記号で選んでいくのですけれども、上の大学は記述や論述とか内容要約とか、何を書いてあるのだとか、そういうことが非常に求められますので、恐らくよろしいかなというのが現場からの、感想です。

○校長 ありがとうございます。

本校に入ってくるのに適性検査があるのですけれども、先ほど千代田区立の小学校に回りましたよと。そのときに子供たちに言ったのは、最後まで諦めずにしっかりと自分の考えを表現することだよと。そのために学校の授業を大事にして、本を読んだりしなさいよということをずっと言っているのですけれども、まさにそういったことはずっとこれから先も大事になってくるということですね。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございました。

諦めない心というのがいろいろキーワードになって、いいお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。

ほかには皆様のほうから。

どうぞ。

○委員 初めて質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

今年度の赤い文字で示された中で2点気になったといいますか、教えていただきたいところがございます。

一つは、理数教育をやってスーパーサイエンスハイスクールにしていくというこの背景といいますか、その志のところを十分理解したいなと思っておりますので、御説明いただきたいと思います。

2点目が、いじめの問題があるのですけれども、いじめの問題がある一方で、今、企業教育の中で多く議論されているのが心理的安全性という言葉です。さらにその一歩先を行ったコミュニケーション力の向上策みたいところで、単に防止するだけではなくて、人間関係をよくすることで学校全体が明るくなる、生き生きとしてくるといったことが、今、企業のほうではそういうふうなアプローチで、いろいろな企業で変えようとしているところです。心理的安全性というキーワードでの取組ということについてはどのようにお考えなのかということ、もしまだそこまで行く前にいろいろとやることがあるのであればそうかもしれませんけれども、いじめの防止だけではなくて、その一歩先というところでお考えがどのようにあるのかを2点お伺いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○校長 まず、理数教育についてなのですけれども、世界で活躍されている方々、特にJICAのトップの方とかいろいろお話しさせていただくのですけれども、日本の場合に世界で活躍する、あるいはJICAが人を募集すると、男女ということはあまり使いたくはないのですが、女性が多い。なぜかという、英語ができるから。でも、英語ができて当たり前前の世界であって、これはグローバルリーダー教育とつながるのですけれども、どういった人たちが今求められているのかということ、理数の物の見方、考え方をしっかりと持っている人が大事だと。そこで、今、九段自立プラン、これはどちらかというとキャリア教育にかなり特化した、とても地域大使館とか企業などにお世話になっていて、いいプログラムで、そこに理数的な物の見方、考え方、これからデータサイエンスも出てきますけれども、その中で分析力、あるデータを分析して、では自分がどういうふうにしていくのかという目標値を定めていたり、あるいは自分の進むべき方向性を見ていく。それが大事だろうということで、理数教育を掲げた。それを掲げるには、スーパーサイエンスハイスクールという国からの冠がありますので、それをどうせだったら目指していくぐらいでないといけないだろうということで進めている。

私は前任校は富士附属中学校だったのですが、そこで初めてスーパーサイエンスハイスクールの認定を受けたのですけれども、大事なのは、そういったプログラムを通じて理数の知識、理解を持った生徒を育成していく。それがグローバルリーダーにつながっていくということを実感しておりますので、そこを掲げたということになります。

それから、心理的安全性は非常に大事なことで、九段の一番いいところは何かということ、先ほども言いましたけれども、職員室に入るときに何々部の、先ほどのように豊かな心育

成部の先生はいますかと言うことで、そういった挨拶ですよね。それは非常に大切で、そういったことをなかなか教育していない学校も今多くなっているのですけれども、挨拶をする、人間関係をよくする。人間関係をよくすることによって、働く環境がよくなってきます。そうすると、おのずといい志向が出てきます。

私が生徒たちに言っているのは、君たちは二兎も三兎も追うでしょうと。それは学校の教育だけではない、部活動があったり、委員会活動あるいは習い事をやっていたり、いろいろなことをやっている。二兎も三兎も追うのだけれども、一人で何もつかまえようとするのではなく、周りを巻き込みながら。これは新しい価値の創造がそうだと思うのです。個人で勉強することも大事だけれども、仲間と勉強することによっていろいろ違う視点が見えてきたり、いろいろな価値が創造できる。そういうことが大事なのだよということを言っていますので、委員からお話しいただきました心理的安全性といったものが大事で、どうしても学校経営方針は結果を書いてしまいますので、その結果がこのいじめゼロというものだと思うのです。ただ、今いただいた御意見は重要だと思いますので、そういったものを前面に出せるように、豊かな心の根源として心理的安全性も大事だと思います。よい循環というのは心理的安全性が一番大事かと思います。ありがとうございます。

○委員 どうもありがとうございました。

○会長 ほかにございますでしょうか。

どうぞ。

○委員 ちょっと細かいのですが、先ほどおっしゃっていた英語が大事ということで、昔、福島国内留学みたいなものがあってオーストラリアがあってというイメージだったのですが、シンガポールが増えたということですか。シンガポール研修とさっきおっしゃっていた。

○校長 5年生ですね。3年生がオーストラリアで、5年生がシンガポールに。

○委員 では、2回行くようにというか、海外には全員が。

○校長 全員行くのです。

○委員 そうなのですね。それは今年からですか。

○校長 そうですね。

今までずっと計画はあったのですが、コロナでずっと潰れていたのです。なので、初めて。

○委員 選抜の子たちが行っていたイメージはあるのですが、オーストラリアに事前にとちょっとだけ。

○校長 それはUCLAですね。夏にUCLA、今年も行くのですが、30人ぐらい。

○委員 それはそれでまだあって。

○校長 それはあります。

○委員 全員がオーストラリアとシンガポールに行く。すごいですね。

○校長 TOKYO GLOBAL GATEWAYというのが青海にあって、今、立川にもできた

のですけれども、要するに英語村みたいなところですね。国内英語村という英語の施設、例えば仕事をするために、ホテルのカウンターであったり、あるいは飛行機の乗務員と英語でやり取りするとか、そういった施設が、その開発に私は実は関わっていたのですけれども、TOKYO GLOBAL GATEWAYというのがあって、そこに1年生が行き。

○委員 福島がそれになったのですね。

○校長 はい。全員行くのです。2年生で今度はBritish Hillsという。 福島もあります。

○委員 福島もあるのですか。

○校長 福島もあります。

○委員 すごいですね。私が入りたいぐらいなのですけれども、そうですか。

○校長 神田外語大学がつくったところなのですが、ハリーポッターみたいな世界に行くのですけれども、そこにも全員行って、英語だけの、英語漬けの。3年生でオーストラリアに行き、4、5年生がUCLA、それから、イギリスのバンガー大と提携を結んで、6大学、国立4大学とアイルランドの国立大学とアメリカの私立の6大学と提携を結んで、その一環として夏と春の休業中に希望者がイギリスに行くというのをやって、既に春に9名が行っていますけれども、そういった研修も行っております。

○委員 すごいですね。ありがとうございます。

○校長 お金もかかります。

○委員 そうですよ。

○校長 結構かかります。

○委員 ありがとうございます。

それは増えたのかなと思ったものですから、確認したかったのが1点と、あともう一つは、ちょっと細かいのですけれども、九段というよりはもしかしたら文科省の何かの管轄かもしれないのですが、18歳から成人ということになったではないですか。それで、比較的どの教育も性善説からできているのかなと思うのですけれども、実は上の子の知人とかでだまされてしまった子とかがいて、要するに契約ができるようになったら、変な話、サラ金からお金を借りることができるわけではないですか。親元にいたってだまされる子がいるのに、大学とかにおきまして一人暮らしをすると当然あると思うのですが、小学生は誘拐されないようにとか、性被害に遭わないようにとか、そういう教育はとてもやられていると思うのですけれども、そういうのは確かに中高は大分減ってはくると思うのですけれども、今度は逆に経済的なそういう被害を受ける可能性が、特に18で契約できるようになりますし、ですから、その辺の教育というか、ひっかからないようにというのをどういうふうにやっていращやるのかなと思って。

○校長 実は家庭科の中で消費者教育があるのです。

○委員 家庭科なのですね。

○校長 今まで家庭科というのは高校の2年生とか3年生に置いたりということもできたのですけれども、今は高校1年生段階、いわゆるここで言うと4年生のところで家庭科は

必ず置きなさいと。それは消費者教育、だまされないとかそういったことを行うために必ずそこに置きなさい。それは18歳成人になったときから指導と文部科学省が言っていますので、必ず高校1年生の段階で家庭科は実施する。そこで消費者教育を行うという形でやっています。1年生に置かなくてはいけないという形になって、1、2年生で置いているのですけれども、そこで実施するような形になっています。

○委員 親の立場で言わせていただくと、多分家庭科はそんなに重視していない子が多いかもしれない、しかも家を出るより大分前のタイミングでやるわけですね。なので、巣立つ子たちに、受験も終わってさあこれから巣立ちだよみたいなタイミングのときにもうちちょっとその辺をやっていたらと、実際にだまされた子を知っていますので、ありがたかなと思います。

○校長 この間、学区の中でいわゆるSNSを通じて詐欺行為を行っていたというのがニュースになっていましたけれども、そういった形での契約もできるようになってきてしまいますので、その辺りで、ただ、成人はちょうど受験と重なってくるというのもあるので、非常に難しいところですね。成人式も20歳でやる自治体もあれば、18からやっているところもあれば、いろいろですけれども、そういうところは確かに考えておかななくてはならないなと。

金融教育などもお金を取り扱うというところで今は入ってきているのです。金融機関であるところと連携をしてもらっているというのはありますけれども、そのように実施しているところではあります。

でも、心配ですね。私も18で東京に一人暮らしで出てきましたけれども、逆に保護者の印が必要だったので、18で一人で出てきて、自分で何も買えなかったり、難しい。クレジットを組むというのは難しいので、親の判こがないと駄目だということで、それはフォローされていたのでしょうけれども、契約を解除するのは難しいですね。

○委員 そうですね。18でできてしまうから。

○会長 ありがとうございます。

ほかにはございますでしょうか。よろしいですか。

では、どうぞ。

○委員 大したあれではないのですけれども、大変すばらしい教育目標を教えてくださいまして、感謝しています。

実態として、不登校の人とかいじめの方とかというのはいるのですか。

○校長 実際にいじめとしての報告件数は去年3件上げています。本人たちもいじめとは認識していないところもあったのですけれども、これはいじめに該当するということで、我々のほうでそのようにして教育委員会に報告を上げているという形になります。いじめを発端として不登校になったというような案件はないのですけれども、人間関係を修復していくためにずっとしている。これは一回謝ったって修復できるものではないので、ずっと引き続き見ているというような状況です。

○委員 それはSNSとかは関係ないのですか。

○校長 あります。SNSとかで、SNSに関しては、これはいじめということではないのですけれども、気軽にというか、あまり考えずにアップしてしまったことが問題となって、それについて指導するという案件も数件ありました。

○委員 今、あまりそういうことは言わないのかと思うので、私は知らないのですが教えてほしいのですけれども、男子生徒と女子生徒の比率というのはどのぐらいになるのですか。

○校長 募集は1対1なのです。なので、募集のときに全て。ここはA区分、B区分で、A区分というのは千代田区民枠、B区分というのは千代田区以外の都民枠ということで2つあるのですけれども、そのA区分も女子50%、男子50%という形で、男女同数になるように募集はしています。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。

ほかにはございますでしょうか。

○委員 再度質問させていただきます。

今年度からいろいろな外部行事が復活して、体育祭も行われて、次は至大荘行事が控えています。至大荘行事については海での活動ということで非常に安全性が大事なところということで、卒業生も支援させていただいています。昨日委嘱式に参加させていただきましたのですけれども、3年間のブランクがあり、その間に支援する卒業生たちは、大学を卒業してしまって社会人になったりしている子たちもいます。社会人になってからも支援していくことで何とかこの行事を維持していくための支援が行われています。ただ、1つだけ懸念いたしますのが、先生方が船に乗られて、大体8隻船が用意されているのですけれども、乗り手を確保するというのが難しいという認識を持っております。船と言っても、和船ということで、いわゆるほかの都立高校、日比谷、新宿、立川といった学校では、普通の和船ではなくて手漕ぎボートが中心なので、技術の習得にも時間がかかるし、法人九段のほうからも支援させていただいているところではあるのですけれども、先生方の異動の状況を見ていますと、漕ぎ手が大幅減っていると見ています。ベテランの先生方もかなり長い間御指導いただいているので、先生方の伝承のほうが私たちは気になっています。うまくその辺りの御配慮といいますか、学校としてのバックアップ、ほかの学校に転出されたとしても御支援いただけるような体制とかを期待したいところではあります。今年は2泊3日ということで今までの行事よりも縮小した形でやられるということなののですけれども、来年度以降もコロナが完全に明けた後での体制の中でどのように行事を進めていかれるのか、私たちも今までどおり4泊5日での行事に戻っていただろうと思って心構えをしておりますので、先生方の対応につきまして、ぜひ今の考えをお聞かせいただければと思います。

○校長 コロナ禍であったので男女分けてということだったのですが、実は男女という考え方もどんどん学校は変えていかなければならないふうになっています。日数をどうする

かについては教育課程に関してのことですので、今後また学校で詰めていくという形になるのかなと思います。元に戻していくというような動きにもなってくるかなとは思いますが、これについては至大荘の宿泊定員等もありますし、今、難しいのは、大広間に雑魚寝みたいな、本当にそれがいいのかどうか、そういったところからも全部考えていかなければならないという部分もあるかなと思いますけれども、これについては今後校内で検討していくということになるかなと思います。

それから、今、ちょうど至大荘のことが出ましたので、実は水褌ですね。男子がつけるいわゆるふんどし、赤いふんどしというのが伝統としてあったのですが、これについて様々な意見が出ています。それに伴って、要するに、正直やりたくないとか、見たくないとかというようなところも出てきています。いわゆる環境セクハラではないですが、目のやり場に困るのでやめてほしいというような形にもなっていますけれども、大事なのは至大荘行事を続けていくというのが第一義的な伝統であるということで、制服でも御存じのように、今まで男子は学ラン、女子はセーラーという形で、セーラーもスカートしかない。それを今年から1、2、3という形で、1型は学ラン、2型はセーラー、スラックス、3型がセーラー、スカートでしょうか。今、いろいろなものを着ています。いわゆる生物学的女子でも学ランを着ているという生徒も増えてきています。

そういった中で、男子は水褌というようにできないような状況になってきていますので、この間、企画会議で話をしたのは、海水パンツで、水褌については男女関係なくつけたい人はつけるということで、ただし、安全面が必要になりますので、当然海水パンツではなくて素肌に水褌をつけるということも安全面では大事だということもちゃんと説明した上で、ただ、原則は海水パンツを履いて、その上に水褌。ただし、安全第一になりますので、しっかりと締めるというようなところで話をしています。なので、逆に言うと、女子で水褌でやってみたいということであれば、それは構いませんよということで、選択肢は生徒に預けるという形にしています。

LGBTQの法案も成立しましたし、それが学校に下りてくるのですが、学校はその前にいろいろなことで、ダイバーシティという形、あるいは人権という視点から考えなければいけないので、ここは校長としての経営の判断という形になりますけれども、最終的には生徒の安全性と、それから、伝統の継承ということで、その伝統は何かというと、至大荘を続けていく。これは本当に菊友会、それから、法人九段の御協力なくしてはできないというところです。

あと、教員も引率をとにかくしていくような形で考えていかなければなりませんし、昨年度も至大荘は中止したのですが、安全に至大荘行事が執り行われるということで教員の研修会だけは実施させていただいたのです。ただ、今の異動の方針でずっと長くある一定の先生がこの九段にいるということとはできないという形になっていますので、入れ替わりも考えながらやっていく必要があるかなとは思っておりますけれども、そういった状況です。

○委員 続けてよろしいですか。

今の水禪のお話なのですけれども、私はかれこれ40年以上この行事に参画していて、水禪の必要性については伝統だけだということと考えていなくて、特に男子が水禪、女子が黄色い腰帯ということの意義といいますのは随分議論されております。端的に言ってしまうと、男子のほうが体重が重いことが多いのと、皮下脂肪が少なく、海から船に上げるときの労力、それが水禪なのか腰帯かで全然違うということなのです。なぜ水禪の必要性があるのかというところについて、恐らくほかの都立高校は内房で比較的水温が高いところで行事をやられている。あと、波も穏やかだという条件の中と、至大荘のある勝浦は水温が2～3度低い、低体温症になりやすいところなので、万が一のところを考えると、海上で船に上げるときにどのような着衣が必要なのかということ、やはり水禪は効果的だろうと私は考えております。実際に低水温にならないければ、そんなに問題ないのかもしれないけれども、だったら比較的沖を泳がなくていいような行事であれば、船に上げること自体があまり起こらないのですけれども、大遠泳とかで1時間以上泳いでいるとそういう状態になる方もいて、迅速に救命しなければいけないときには水禪というのは非常に効果的な着衣である。大体女子よりも男子が皮下脂肪が少ないので、低体温症になりやすいというような背景もありまして、それはLGBTの人権の問題だけではなくて、どちらかという命を守るというところでその行事が続いてきているという認識でおりますので、いろいろな御希望を聞きながらやられるというのは全然反対ではありませんし、過去にも水着を着た上で水禪をやったりしたときも、ここ数年だけではなくて過去の数十年前にもやっていますので、議論自体は否定するものではないのですけれども、水禪というのはそういう実態面で必要な着衣であろうという理解できておりますということをお伝えしたいと思います。

○校長 それも全て含めて経営判断したということで御理解いただければと思います。そのことについては全部聞いています。生徒の安全第一です。先ほども言ったように、伝統とは何かということは、至大荘を続けていくということです。あまり水禪にこだわってしまうと、その行事そのものが、あるいは希望者だけになっていったり、非常にできなくなってくると思います。そこは御理解いただければありがたいなと思います。

○会長 ありがとうございます。

あまり詳細な部分についてここで論議をするというお話でもないし、学校としての経営判断をしていただいて、また結果として何かありましたらディスカッションなり意見交換の場を持たせていただければと思います。

御質問、御回答等ありましたが、これで一応御質問、御意見は終了ということでよろしいでしょうか。まだどうしてもというところがあればですが、よろしければ、本件に関して、学校経営に関してのいろいろな御意見を皆さんから賜りましたので、またそれらを参考にして経営判断につなげていただきたいと思います。

私のほうからも、千代田区とのいろいろな約束事の中でいかに伝統行事を継承していく

かということとともに、時代の流れというものもよく見ながら学校経営をやっていかなければいけないのだろうと察します。そういう中で御苦労があると思いますが、ぜひとも私どもを含めてトランスペアレンシーというか、透明性を持った論議をさせていただければと思っています。また今後ともよろしくお願いしたいと思っています。

本日の論議はこれで終了ということではよろしいでしょうか。

では、よろしければ、第2回目の学校経営協議会の日程については。

○校長 その前に2点だけ、5のその他ということで、まず資料なのですが、6です。千代田区立九段中等教育入学者決定要件に関する検討結果報告書というのがあります。

その4ページを見ていただければと思うのですが、これについてです検討委員会が行われまして、先日終了したのですが、4ページを見ていただくと、その一番下です。本検討会では、今後の九段中等教育学校における入学等の在り方について、より社会状況に適合した入学者決定要件となるよう、男女別定員を撤廃する方向で要件の見直しを図ると書かれています。これは今後の教育委員会の決定を受けてということになりますけれども、男女は撤廃するというようなことで議論があったということでまず御理解いただければなと思います。

教育委員会を通じてどのような決定がなされるか分かりませんが、もし男女撤廃ということになれば、今後、先ほどの割合は1対1ですということが1対1ではなくなってくる可能性があるということになります。それに伴って、教育課程上、男女同数であれば、体育などは今はまだ男女共修でやっている部分もあるのですが、別々にやっているところがありますので、その在り方ですとか、あるいは施設ですね。トイレの問題、これも男子トイレ、女子トイレだけではなくて、先ほどLGBTQのこともあるのですが、そういったことでの施設の変更等も考える必要があるかなと思いますけれども、こういった方向性が示されたということでまず御報告したいと思っています。

それから、資料7です。

先ほどから話をしていますが、新たな最先端活用プログラム開発検討委員会、ここに所掌事項ということで理数教育、グローバルリーダー教育、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育、ICT教育、高校版IRというのはInstitutional Researchといういわゆる評価に関することなのですが、こういったことについて検討していくとなっております。

1枚めくっていただきますと、学識経験者ということで五十音順に書かせていただいておりますけれども、五十棲さん、経産省で未来の教室等を担当している方になります。それから、川越先生、本校での観望会でもよくお世話になっている東京大学の先生です。島田久仁彦先生は国連のネゴシエーターの方です。いろいろ国家元首と会われていた方で、19か国語とかぐらい話せる方なのけれども、その方が入っております。それから、野中先生は、スーパーサイエンスハイスクールの認定を行っている日本科学機構の職員の先生です。登本先生は探究に優れた方で、また、学校評価に優れた方です。増田委員は元教育

監です。教育監というのは教育長の教育監という、東京都教育長には教育長の補佐役としてトップの方がいるのですけれども、その教育監を務められた方です。私の元上司になるのですけれども、入っていただいております。校條さんはシリコンバレーでご活躍の方です。あと、教育委員会から山本課長に入っていただいて、このような形で今プログラムを進めているというところであります。

第1回目の記録もありますので、こういったことが話合われているのだなということ御理解いただければと思います。

その他の部分については以上です。

○会長 ありがとうございます。失礼しました。

今、その他の部分についてお話がありましたが、皆さん、委員のほうから何か御意見、御質問等がありますでしょうか。よろしいですか。

よろしければ、先ほどこちょっと先走りましたが、第2回目の評議会は11月に開催予定でおりますが、後ほど副会長と調整させていただいて日程を決めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、次回開催については事務局を含めて調整させていただいて、また御連絡をさせていただきます。

本日はこれで閉会といたしますが、よろしいでしょうか。

では、御協力ありがとうございました。